

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人 ふれんど		
事業所名	グループホーム のどか (のどか1)		
所在地	苫小牧市明徳町4丁目4番17号		
自己評価作成日	平成22年11月21日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600933&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでは、入居されている方の尊厳を守り、その人らしい生活を尊重することが基本となります。日常生活での潤いも大切です。これらのことを実施するためには、まず、職員一人ひとりが理解し資質を向上させていくことが重要と考え、当法人及び系列の医療法人とも連携し、職員教育に力を入れるようにしています。また、リスクマネジメント教育については2ヶ月に1度全職員一人ひとりが4項目(①施設環境・設備に関すること②入居者ADL等に関すること③入居者の嚥下状態について④書式や記録などシステム上の改善について)についてのファインド報告を所属長経由で開設者決裁を受け、防止等に努めています。その他入居されている方に対しては、専門の講師を呼び、音楽療法及び軽体操を行ない、日常生活に変化をつけています。特に音楽療法の効果は大きく、楽しみに参加される方も多く、日常でも皆で歌う機会が増えてきています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年1月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな場所にある高齢者複合施設の中に、デイサービスセンター、ケアハウス、居宅介護支援事業所とともにある。「のどかにほのぼのと安らぎのある生活、その人らしく、地域の人々とのふれあいを大切に」の理念の下、普段からユニット間の垣根をつくらず、共同で手工芸品を作ったり、週2回音楽療法士の資格を持った職員が音楽療法と軽体操を行い、日常的に歌うなど、楽しい時間を過ごしている。ケアハウスにボランティアで訪問しているプロの歌手の歌を聞きに行くこともある。2ヶ月に1回、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の担当者、施設長、管理者が参加する運営推進会議の開催が定例化しており、運営や行事対応、災害対策等、利用者の支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、オープン当時のスタッフ全員で作り上げ、スタッフルームに掲示し、毎日申し送り時に復唱し心にとめている。	「のどかにほのぼのと安らぎのある生活、一人一人を尊重しその人らしく生活できるよう、常に相手の立場に立つ思いやり、地域の人々とのふれあいを大切に」の理念を毎日復唱し、理念の具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ケアハウスから入居した方もおり、ケアハウスからよく面会に来る方がおり、また時々友人が訪ねてくる人もいます。	春から秋には町内会行事の祭りや幼稚園の運動会等の行事に参加し、散歩をしながら近隣の方と交流している。冬には事業所が入っている高齢者複合施設内で行われるボランティア訪問等の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	複合施設として、地域にむけた講演会などを行っている。 また、ヘルパー2級の実習施設として活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者の状況、生活の様子など話し、自己評価、外部評価についても報告している。評価や意見はサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族、町内会長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員、施設長、管理者等が参加し、開催が定例化している。議事録は家族に送付し、周知を図っている。意見をサービスの質の向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム協議会には、積極的に参加している。運営推進会議には、市の介護福祉課の方も参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム連絡会に参加し研修を受けている。市の担当者が運営推進会議へ参加しており、ケアサービスについて協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引き、行動制限に対するガイドラインをスタッフルームに置き、スタッフには周知している。 施錠については、以前施設から失踪した利用者のご家族の強い申し出があり錠をかけている。	身体拘束、行動制限についてガイドラインを置き、周知し取り組んでいるが、以前からの課題である施錠については、話し合いは持っているが、開錠には至っていない。	玄関の施錠やケアハウスに通じる施錠等、できるところから開錠に向けた取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するファイルを事務所に置き見ている。研修会に参加、ミーティングにも話し合われており研修もやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について精通した職員がおり、研修会を実施している。以前制度を利用した方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明、話し合い納得していただける様努めている。入院が長期に及ぶような時は、医療機関とも連絡をとり、ご入居者が不利益にならないよう話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に苦情受付BOXを設置しており、面会時や行事の後などにも話し合いを行っている。	玄関に苦情箱を設置し、家族に行事アンケートを行い、また、面会時や電話等で意見や要望の表出につながるよう取り組み、出された意見等を取り入れるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時意見を聞いている。また、2ヶ月に1回のファインド報告を行い、施設のハード面、介護面など職員一人ひとりが意見を記載し、運営者の決裁を受けている。	2ヶ月に1度行うリスクマネジメント教育の中で、施設環境、利用者の日常生活動作、嚥下状態、書式や記録等の改善についての意見を出し、所属長経由で開設者決済を受け、意見の反映ができる仕組みが整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度及び人事考課制度を設けて、各自が向上心を持って働けるよう努めている。リーダー職も含め話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外研修に行く機会を与え、DVD研修やKYT研修も行っている。また、職員教育として、採用時には法人独自の職員基本業務マニュアルを用いたの新人研修に始まり、年間通し初級、中級、上級研修の受講を義務づけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、協議会に出席し、他の施設の方たちと話し、サービスの向上に活かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族や関係機関からの情報を中心に面談を行っている。また、入居の際には本人と面談を行うようにし、本人の状況も把握するよう心がけている。また、入居したばかりの時は、特に普段の様子を詳細に記録しアセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談において、ご家族が求めている事、希望されている事を確認し、話し合い説明するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状態を見極め、本人に合った支援を考えるようにしている。必要に応じ、他の部門への相談も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、教えてもらうことも多い。本人の気持ちを尊重しつつも、大家族の様に支え合えるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話などで様子を伝え、相談しながら支えている。行事に参加された時なども、ご家族同士話し合う機会を設けている。また、施設の活動を記録した「おたより」を送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人暮らしだった人も多く、認知症になってからは、地域とのつながりがなかった様で、1人の利用者さん以外は家族のみの面会である。	近隣の人の訪問を楽しみに、利用者が直接電話をかけた時、理美容は利用開始前の店に通っている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でも性格の合う、合わないがあるため、施設内にリビングの他に和室、オープンキッチンカウンター、長椅子の配置をし、それぞれの利用者に適した居場所ができるよう工夫している。また利用者同士の関係性も考慮し、席の配置を決めている。日中はリビングにいる方皆でレク活動も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を壊し、入院の結果退居される方がほとんどであり、地元のため市内でご家族と会うこともあり、気軽に声を掛け合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は日常の会話や関わりの中で感じとり、スタッフ間で検討し全員で把握している。	普段の様子をチェックしながら、日常の会話の中で思いの把握に努めると共に、センター方式を活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族が記載するアセスメントシートによりある程度把握しているが、1人ぐらしだったため家族が知らないということもあり、入居後本人の会話から情報を集めることが多い。その都度ミーティングや連絡ノートで周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、連絡ノート、申し送りなど日常の中から把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、カンファレンス、職員のモニタリングなどからケアのあり方を検討し、家族とも話した上で介護計画を作成している。	ミーティング、カンファレンス、毎月のモニタリングなどで介護計画を作成している。家族の希望を取り込み、話し合いを持ちながら、現状に合った支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、変化、行動を記入し、申し送りや連絡ノートで情報交換し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ1人ひとりに合った支援を心がけている。その日の状況を見て、特に気をつけなければならない事項等を記載するノートを作り、毎日仕事始め等に見るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の方もおり、地域資源を把握し支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が系列法人であり、密接な連携を保ち、往診して頂いている。他の医療機関の訪問診療や通院を行っている人もいる。	かかりつけ医は原則家族対応であるが、利用者の要望でかかりつけ医の往診もうけている。協力医療機関の定期往診、皮膚科や歯科の往診対応も可能であり、系列医療法人との密接な連携を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設全体では看護職員が24時間常駐しており、利用者の健康管理についても相談している。突発的なことも必ず看護職員にチェックして頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の系列医療法人が協力病院となっており、密なる連携をとっている。また、その他病院関係者とは情報交換や相談を頻繁に行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のあり方について説明し、施設でできること、できないことなどを話し、同意して頂いている。	重度化や終末期については、指針に基づき利用開始時に説明を行い、同意を得ているが、看取りに至ったケースはない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年応急手当、初期対応の研修を受けており、常に施設全体に看護職員がいるため連絡し、協力して頂いている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、訓練を行っている。町内会との協力体制も整っている。	年2回施設全体で、昼夜対応避難訓練を行っている。町内会との連絡網を完備しており、協力体制も構築している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉使いや記録の書き方に注意している。新入社員には、個人情報に関する誓約、同意書をもらい研修もしている。	利用者を人生の先輩として、一人ひとりを尊重した言葉遣いに努めている。個人情報にも注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりに合わせ、急がず、ゆっくり答えを待つように努めている。意思疎通の難しい人は、表情や動作からくみ取り支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、1人ひとりのペースを大切にしている。居室以外でも、リビング、食堂など複数の居場所作りをするよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内の理・美容を利用している人が多いが、家族とともに昔からの所に通っている人もいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けなど、その人によりできることは違うが、職員と一緒にやっている。	利用者ができることを見極め、配膳、片付けなどを職員と一緒にやっている。また、好みを取り入れた献立など、食事を楽しむ支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量、水分量が1目でわかるようになっており、介護職員がメニューを作っており、好みなども把握している。また、法人本部の管理栄養士が定期的に献立をチェックしており、その人に合った食事形態での提供をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設長が歯科衛生士でもあり、起床時、就寝時には口腔清掃の声かけ・見守りをして介助が必要な方には介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄チェックをすることで、1人ひとりのパターンが把握できている。それによりトイレ誘導などしている。また、行動を見てトイレ誘導も行っている。	排泄チェック表に基づき、一人ひとりのパターンを把握して、トレーニングパンツから布パンツへ変更している。また、チェック表で確認している本人の排泄に関する習慣を考慮した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調節、水分摂取の声かけ、水分チェック、飲み物の工夫などを行っている。また、ラジオ体操を行うなど毎日体を動かしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	朝のうちから入りたい人には入浴して頂いている。また、ほぼ日にちが決まっている機械浴の方でも、本人の希望により変更して入浴する場合もある。	浴室には天然温泉を引いており、週2回を目安に、個々に合わせた入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で昼寝したり、ベッドで横になりテレビをみながら過ごす人もいます。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は周知している。特に薬が変わった時は、服用後の状態に変化がないかよくチェックし、記録している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗たく物のたたみ、盛り付けなど、好きな事を手伝って頂いている。また、週2回の音楽療法は皆さんとても楽しみにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか戸外に出ることは難しいが、職員と一緒に買い物に出掛けているご入居者もいる。花見や紅葉狩り、外食ツアーに家族の参加もあった。	夏場は、戸外の散歩、花見や紅葉狩り、家族の参加を得た外食ツアーを行っている。外出が難しい冬期は、複合施設を大いに利用し、運動不足にならない工夫をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ち、ケアハウスの売店にスタッフ付き添いにて、買い物に行くご入居者もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族に手紙や電話を掛けているご入居者もいる。職員が住所を書いてあげる等支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中には、家庭の様な雰囲気を出すためタイルカーペットを使用している。入居者の方が作った作品や、行事の写真を貼るなどして、少しでも居心地良いよう工夫している。	2つのユニットが事務所でつながっており、互いに訪問したり、中庭での豆栽培、共同で雪だるまを制作している。また、手芸品や行事ごとの写真を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分で好きな場所で過ごせる様、リビング、食堂、和室など数ヶ所の居場所を設置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物を持ってきたり、状態に合わせたベットを用意する等して、それぞれ好みの物を自由に置いている。造花や家族の写真を飾っている人もいる。	居室には、仏壇など馴染みの物を持ち込み、家族の写真や手芸品を飾り、本人の状態に合わせたベットを用意する等、居心地の良い居室づくりができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースの他、トイレにも手すりがあり、広く介助しやすくなっている。必要と思われる物、危険と思われる物に対しては、その都度対応している。			